

力 一 二 三 四 五 六

鳥大の人々

田中雄悟

(鳥取大学医学部附属病院 胸部外科診療科群 教授)

病院長対談「武」に「虎」

山口育子

(ささえあい医療人権センター COML 理事長)

とりだい病院医療者に聞きました

私の「人生」を変えた患者さんの言葉

【新連載スタート】これが、私の「IKIGAI」!!

第1回 飯野守男

(鳥取大学医学部法医学分野教授)

医療最前線

がん治療を変える「光免疫療法」

病気にからない、あるいは怪我をしないと
いう人はいません。医療は生活に切り離せない
ものです。それにもかかわらず、病院を敬遠し
たり、垣根が高いと感じる人も少なくありません。
そこで、医療の世界を「いかに知つてもら
うか」→「いかに知る」→「カニジル」となり
ました。

もちろん、とりだい病院のある鳥取県の名
産品、「蟹のだし(味噌)汁」にも掛けています。

蟹汁のよう、皆さまに愛される存在でありた
いという思いも込めました。

「カニジル」が第一にこだわるのは「ファクト」
です。

医療に関して、不正確な情報が世の中にはあ
ふれています。短く、分かりやすい言葉は人々
の心に突き刺さりやすい。しかし、現実はそう
簡単ではありません。分かりやすくするため、
大切なものを多くそぎ落としています。
あまり知られていませんが、医療は、科学的
に証明されていることとそうでないことを完全
に二分できない世界です。その時点でのファク
ト・エビデンスを重んじていても、そのファク
ト自体がひっくり返ることもあり得る。大切な
のは、愚直に取材し、確かな文献に当たり、真
摯に考える——それが我々の姿勢です。IT(情
報技術)、SNS(ソーシャルネットワーキング
サービス)の発達により、我々が手にする情報
は爆発的に増えました。その中から、いかに正
確な情報を選び取ることができるか。生命の危
機にも直結する医学では、その力が特に必要に
なってきます。カニジルはそのお手伝いをした
いと考えています。

とりだい病院は、医療機関であると同時に、
職員、患者を合わせて1日の滞留人口は約4千
人から5千人。この地域でもつとも人が集まる
場所です。

原田省・前病院長は、「すぐれた文化を展開
し、人間的に魅力ある社会を持続的、安定的
に維持」する可能性を秘めているという意味で、
病院は「社会的共通資本」であると定義しまし
た。この「社会的共通資本」は、米子市出身の
世界的な経済学者、宇沢弘文氏が提唱した言葉
です。

2023年4月から原田氏の後を継いだ武
中篤病院長の下で、とりだい病院サポーター制
度「地域と共に創る自慢のOur hospital」が始
まっています。武中病院長は「社会的共通資本
である国立大学病院に、住民の方々にボランティ
アとして関わり、喜び、やり甲斐を見つけてい
ただくこと。そしてサポート同士、職員、学
生たちと新たなコミュニケーションを創つてもらいた
い」と語ります。そして、とりだい病院が「Our
hospital」(アワーホスピタル)、つまり「私たち
の自慢の病院」となることが最終目標である、
と。こうしたとりだい病院の挑戦、考えを、こ
の「カニジル」および「カニジルラジオ」(BS
山陰放送ラジオで毎週土曜日ひる0時25分か
らオンライン)で伝えていきます。

とりだい病院のある米子市を含めた山陰地方
は、「過疎」「超高齢化社会」という日本が抱え
る問題が凝縮されています。一方、人との温か
いつながり、自然など、都会にはない豊かさが
ある。問題を解決しつつ、豊かさをどう維持し
ていくか——。先んじて未来の問題を解決でき
る場所なのです。

すべては困つて いる患者のために―― 「目の前で苦しんで いる人がいるのに自分は 何もでき ない」という思 いから 医師になつた。

田中 雄悟 鳥取大学医学部附属病院 胸部外科診療科群 教授

人の人生は、偶然の出会い、突然的な事故によって
大きく変わる。鳥取大学医学部附属病院 胸部外科
診療科群教授の田中雄悟は、阪神淡路大震災で被災
しなければ、医師になつていなかつたかもしれない
と言ふ。困っている人、苦しんでいる人を助ける
という思いが人生を貫く軸となつたのだ。そして今、
彼は、生まれ故郷の神戸を離れて米子で、口ボット
支援手術に注力し、後進の育成に心を砕いている。

無心に掃除をしていた田中雄悟は、日
付が変わり、1月17日になつてること
に気がついた。

例年、田中家では年末に大掃除を行な
っていた。しかし、インフルエンザに罹
患してしまい、先延ばしになつていたの
だ。4月には高校3年生になり受験勉強
で追われるだろう。いつもよりも念入り
に掃除をしていた。ようやく終わり、空
気を入れ換えると窓を開けた。すると、
遠くからゴーッという音が聞こえた。こ
れまで聞いたことのない不思議な、そし
て不気味な音だった。その音の意味が分
かつたのは、数時間後のことだった。

1995年1月17日5時46分、兵庫県
淡路島沖の明石海峡を震源とする、マグ
ニチュード7.3の地震が発生した。阪
神・淡路大震災である。

「ガガガガつて音がして目が覚めたんで
す。近くに爆弾が落ちて、爆発したのか
なと思った。気がついたら家の外にいま
した。どうやって外に出たのかは覚えて
いないです。玄関、家の窓、扉、雨戸



写真 馬場磨貴

CONTENTS

- 03 すべては困っている患者のために――
「目の前で苦しんでいる人がいるのに自分は何もできない」
という思 いから 医師になつた。
——鳥取大学医学部附属病院 胸部外科診療科群 教授
田中 雄悟
- 06 医療最前线 がん治療を変える「光免疫療法」
——とりだい病院&楽天メデイカルの挑戦
- 10 とりだい病院医療者に聞きました
私の「人生」を変えた患者さんの言葉
- 14 【新連載】これが、私の「IKIGAI」!!
第1回 飯野守男(鳥取大学医学部法医学分野教授)
- 16 病院長が話題の人物に迫る!「武」に「虎」――
ささえあい医療人権センター COML 理事長
山口 育子
- 20 カニジルブックレビュー
医療従事者は「話題の本」をこう読む
第9回『世界は経営でできている』(岩尾俊兵 講談社現代新書)
鳥取大学医学部附属病院 副病院長
女性診療科群 教授
谷口文紀
- 21 一緒に「Our hospital -私たちの病院-」を作りませんか?
とりだい病院サポーター通信
- 22 Tottori Breath
大学病院の今そこにある「危機」
- 23 2029年新病院着工へ
とりだい「未来病院」発進!!「私」なら、こうする&こうしたい!
鳥取大学医学部附属病院 手術部 副看護師長 前田延子
- 24 シン・トリビート
フォトグラファー七咲友梨が切り取る、とりだい病院の日常

Kanijiru vol.21 Staff

スーパーバイザー	結城豊弘 黒崎雅道(とりだい病院副病院長)
編集長	田崎健太 中原由依子
編集	石谷昌子 村上 敏
編集委員	藤原和典(とりだい病院広報・企画戦略センター長) 宮田 麗(とりだい病院広報・企画戦略副センター長)

写真	馬場磨貴 七咲友梨 三村 漢(niwononiwa) 大貫 茜(niwononiwa) 山本怜央 サンエムカラー
----	---

がすべて開きっぱなしになつていて」

田中が住んでいた神戸市長田区は、震災の被害が特に大きかった一帯である。

「幸い雨風をしのぐことはできた。家は半壊状態で、水と電気が止まつていながらもいました。毎日、ポリタンク車からもらいました。毎日、ポリタンクで水を運んでいました」

田中が通っていた長田高校は避難所になつた。

「近所のおじいちゃん、おばあちゃんたちが避難所にいました。水の入ったポリタンクは重い。昼ぐらいから避難所に行つて、水を運んだり、掃除を手伝つたり」

毎日の仕事は水汲みでしたねと、田中は振り返る。そんな頃、医師である叔父の友人が被災地支援でやつてきた。

「放射線科の先生が放射線技師、看護師さんたち10人でチームを組んで、物資を持つて来られた。(建物が倒壊して)車は入れないので自転車でした。うちに泊まりながら避難所を回つた。ぼくは道案内のお手伝いをしました。目の前で苦しんでいる人がいるのに自分は何もできない。そこで先生たちが淡々と診察をされ、その後も彼とは手紙をやりとりした。それまで田中は漠然と理系学部に進み、研究者か教職につくことを考えていたが、彼との出会いで医学部を受験することに決めた。そう手紙に書くと、こう返事があつた。医師はしんどい、ただ人を助け

ることができる素晴らしい職業である、と。

従来の常識を変える 「ロボット支援手術」と 鳥取で出会う



「肺は身体の深い場所にあるので、長い器具を使います。(手術時に)出血があると結構な量になる。手術としては難しい部類に入る」

だからこそ、術者の経験、技量による「差」が出てくる。こうした前提をがらりと変える可能性のある術式——ロボット支援手術と田中が出会つたのは、2014年12月のことだつた。場所はとりだい病院である。

「神戸大学でロボット手術は泌尿器科で積極的に行われていました。ぼくも呼吸器外科でロボットを使ってみたいと思つていました。当時は呼吸器外科でやつてある施設がほとんどなかつた。とりだい病院でやつてているというので見に行くことにしたんです」

ロボット手術では患者の体に小さな穴を開け、4本のアームに取り付けたカメラと手術鉗子を挿入。術者は、コンソールと呼ばれる操縦席で、カメラと鉗子を動かし、手術を行う。この術式の最大の利点は切開部分が少ないことだ。そして器械を使用することで、術者の熟練度がある程度平均化される。

2010年8月、とりだい病院はロボ

ット支援手術を導入、2011年2月に「低侵襲外科センター」を設立、複数の外科でのロボット支援手術を進めていた。

「第一印象はかなり大変そう、というも

のでした。また慣れていないことも

あるでしょう、当時の(胸部外科診療科

群)教授たつた中村廣繁先生が苦労して手術をされていた。本当に普及するのかとも思いました」

中村は日本呼吸器外科学会のロボット支援部会の部会長でもあつた。

「廣繁先生たちが症例を積み重ねてこれまで田中は漠然と理系学部に進み、研究者か教職につくことを考えていたが、彼との出会いで医学部を受験することに決めた。そう手紙に書くと、こう返事があつた。医師はしんどい、ただ人を助け

まらないながら避難所を回つた。ぼくは道案内のお手伝いをしました。目の前で苦し

んでいる人がいるのに自分は何もできない。そこで先生たちが淡々と診察をされ、その後も彼とは手紙をやりとりした。

これまで田中は漠然と理系学部に進み、研究者か教職につくことを考えていたが、彼との出会いで医学部を受験することに

決めた。そう手紙に書くと、こう返事があつた。医師はしんどい、ただ人を助け

まらないながら避難所を回つた。ぼくは道案内のお手伝いをしました。目の前で苦し

んでいる人がいるのに自分は何もできない。そこで先生たちが淡々と診察をされ、その後も彼とは手紙をやりとりした。

これまで田中は漠然と理系学部に進み、研究者か教職につくことを考えていたが、彼との出会いで医学部を受験することに

決めた。そう手紙に書くと、こう返事があつた。医師はしんどい、ただ人を助け

まらないながら避難所を回つた。ぼくは道案内のお手伝いをしました。目の前で苦し

んでいる人がいるのに自分は何もできない。そこで先生たちが淡々と診察をされ、その後も彼とは手紙をやりとりした。

「放射線科の先生が放射線技師、看護師さんたち10人でチームを組んで、物資を持って来られた。(建物が倒壊して)車は入れないので自転車でした。うちに泊まりながら避難所を回つた。ぼくは道案内のお手伝いをしました。目の前で苦しんでいる人がいるのに自分は何もできない。そこで先生たちが淡々と診察をされ、その後も彼とは手紙をやりとりした。

これまで田中は漠然と理系学部に進み、研究者か教職につくことを考えていたが、彼との出会いで医学部を受験することに

決めた。そう手紙に書くと、こう返事があつた。医師はしんどい、ただ人を助け

まらないながら避難所を回つた。ぼくは道案内のお手伝いをしました。目の前で苦し

んでいる人がいるのに自分は何もできない。そこで先生たちが淡々と診察をされ、その後も彼とは手紙をやりとりした。

これまで田中は漠然と理系学部に進み、研究者か教職につくことを考えていたが、彼との出会いで医学部を受験することに

決めた。そう手紙に書くと、こう返事があつた。医師はしんどい、ただ人を助け

まらないながら避難所を回つた。ぼくは道案内のお手伝いをしました。目の前で苦し

—とりだい病院＆楽天メディカルの挑戦



2人に1人はがんにかかると言われる今、がんは常に新たな薬や治療法が求められる疾患（＝アンメット・メディカル・ニーズ）として、日々、世界中で研究が続けられている。そうした中、頭頸部がん領域では再発したがんに対する治療の模索が続けていた。その停滞を破るようにあらわれたのが「光免疫療法」である。可能性を秘めたこの新しい治療を、一日でも早く患者へ届けたいと願い、奮闘する関係者たちの努力を追った。

取材・文 村上敏 写真 七咲友梨

手術室と聞けば、灯りが煌々とついて医師の手元を照らす様子を思い浮かべるかもしれない。しかし、2022年2月、とりだい病院のIVR（血管内治療）を行った手術室は真っ暗だった。わずかに光るのは、患者の手術部位に刺した針状のデバイスのみ。ここで行われていたのは、頭頸部がんへの光免疫療法だった。

手術室には緊張感が漂っていたが、それは明るさがいつも異なることだけが原因ではない。光免疫療法は2020年11月に薬価収載され、翌年1月に保険治療が開始されたばかりの新しい治療法であり、とりだい病院としても初の手術だった。頭頸部外科教授の藤原和典はその日をこう振り返る。

「光免疫療法の手技のコンセプトはシンプルです。もちろん適切な照射領域を定めたり、ニードルを刺す行為はトレーニングが必要ですが、メーカーから研修を受け事前に繰り返し練習します。それでも初めてだと肩に力が入る。大事な部分にきちんと光が当たるかどうか、慎重に進めました」

光免疫療法とは、いったいどのような治療法なのか。それを説明するには、頭頸部がんの治療法から解説したほうがいいだろう。頭頸部がんは、顔や首、口、のどなど、鎖骨から上の脳と目を除く部分に発生するがんの総称だ。全がんのうち約5%で他のがんに比べて患者数は少ないものの、

頭頸部には人が生きるために機能——食べる、呼吸する、話す、飲み込むなど——が集中しており、がんでそれらの機能が損なわれると生活の質が大幅に低下しかねない。治療自体の難しさに加え、いかに機能を維持するかが問われるがんである。

頭頸部に限らず、がんの治療法は、外科手術、放射線治療、薬物治療の3つ。頭頸部がんの場合、初めての発症なら、3つの中から最適な治療法を選択できる。しかし再発や転移、重複がん（頭頸部がんは約30%で新しいがんが発生する）の場合は、外科手術でがんを切除するとその部分を形成外科で再建します。二度目は再建が難しく、生活に必要な機能が失われる場合もあります。放射線治療も認められているのは同じ部位には1回目だけ。残るのは抗がん剤で、十分な効果が得られない場合もあります」（藤原）

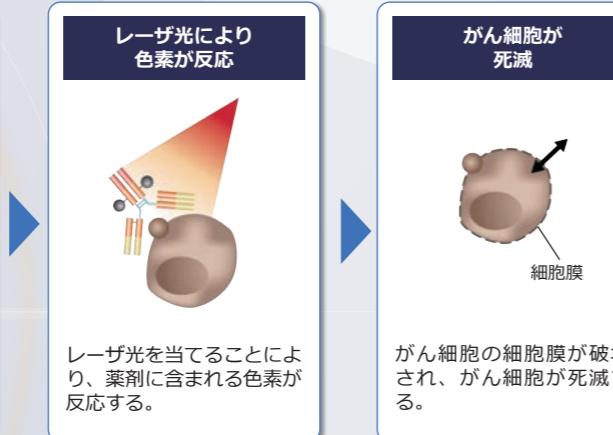
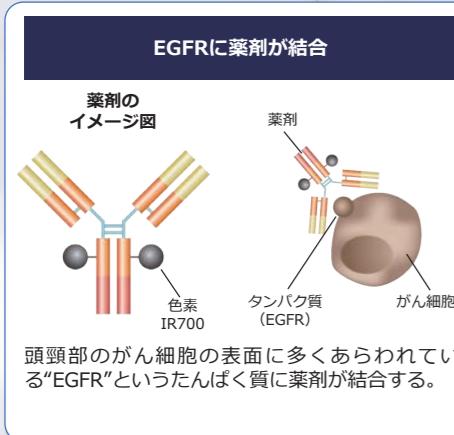
それ以外の治療法となるのが、光免疫療法である。

頭頸部のがん細胞の表面にはEGFRというたんぱく質が多くあらわれる。患者にアキヤルツクスという薬を投与すると、EGFRと結合。そこに波長690ナノメートルのレーザー光を当てるとアキヤルツクスが反応し、結合していたがん細胞が破壊される。海外で行われた治療では、がんの奏効率（がんが消滅あるいは30%以上減少する率）は43.3%

楽天・三木谷浩史と「医療」の関わり



I（米国立衛生研究所・国立がん研究所）主任研究員の小林久隆である。11年に米医学誌『Nature Medicine』に光免疫療法の論文を掲載。アメリカの医療ベンチャーアスピリアン・セラピューティックス社がこの治療法の実用化に取り組んでいた。がんを発症した父のために、あらゆる治療法の可能性を探っていた三木谷は知人を通じて、光免疫療法に出会い、13年に個人的な出資を



素材：楽天メディカル（株）

私の「人生」を変えた 患者さんの言葉

毎日の診療のなかで、患者さんと交わした一言が、ずっと心に残り、ふとした瞬間に思い出されることがある。それは感謝や労い、励ましの言葉であったり、叱責やショックを受けた一言であったりもある。けれど、そのどれもが、医療者の考え方や行動、患者さんへの向き合い方を変化させ、今の自分を作っている。そんな珠玉の「言葉」を、とりだい病院の医療関係者に聞きました。

構成 中原由依子

黒崎雅道さん
副病院長・脳神経外科教授

森田理恵さん
副病院長・看護部長

「私みたいにうるさい親に、
やさしく対応してくれてありがとう。
私だったら絶対無理やわ」

研修医の頃、受け持った患者さんの母親が、子どもの病状に関するところをよく勉強されており、勉強不足の私に対して文句を言われたり、私の間違いに容赦無く鋭いつっこみを入れてこられました。けれどもその母親の態度は、わが子の病気が少しでも良くなつてほしいという愛情の強さの表れ。そのとき言われたいろいろな言葉が、その後の私の医者としての態度にいい影響を与えてくれました。

2

森田理恵さん
副病院長・看護部長

「よろしくお願ひします」

手術部で喉頭の全摘出手術を担当した際、患者さんが麻酔で眠る前に発した一言。手術後には声を失うことと思うと、その「最後の声」を聞いたのは家族ではなく自分たち医療者だったと気づき、ハッとした。この経験を通して、手術部看護師としてより真摯に患者さんと向き合っていかなければと思いました。

3

小澤晋作さん
副看護部長

「とりだい病院はもっと冷たいと思っていたけど、
ここは温かくて心安まる。ここでよかった」

25年前 研修医として大腸がんの患者さんを担当しました。手術は成功し順調に退院されましたが、退院時に「先生は病気しか診ていなかつた。私の心に寄り添つてほしかった」と書かれた手紙をいたしました。当時は反発する気持ちもありましたが、その言葉は、心に残り続けました。

入院中の患者さんの奥様からかけられた言葉で、患者さんだけではなく家族も不安を抱えていることを改めて実感しました。以来、面会時には家族にも積極的に声をかけ、少しでも安心して過ごしてもらえるよう心がけています。忙しいときこそこの言葉を思い出し、患者さんや家族に丁寧に向き合うようにしています。

坂本照尚さん
消化器・小児外科准教授

4

episode

「先生は病気しか診てない」

25年前 研修医として大腸がんの患者さんを担当しました。手術は成功し順調に退院されましたが、退院時に「治すために頑張ろう」と声をかけた自分が、今も何をどう話せばよかつたのか答えが見つかりません。選ぶ言葉の問題もありますが、表情や言い方など非言語でのコミュニケーションこそ医師として大切だと感じた出来事でした。

5

奥野啓介さん
小児科
講師

「私の病気治るの？」

episode

難治性小児がんの10歳の女の子から言わされた言葉です。彼女は痛みに耐えながら、放射線治療を受けていました。「治すために頑張ろう」と声をかけた自分が、今も何をどう話せばよかつたのか答えが見つかりません。選ぶ言葉の問題もありますが、表情や言い方など非言語でのコミュニケーションこそ医師として大切だと感じた出来事でした。

6

松原真紀さん
看護師

「かわいい！」

episode

緊急帝王切開で運ばれてきた患者さんが全身麻酔下で手術を受けましたが、残念ながらそのお子さんは亡くなりました。麻酔から覚めて、「主人とともに亡くなつたお子さんと対面した患者さんが満面の笑みで「かわいい！」と。この言葉は私にとって命の尊さや他者の存在の大切さを知るきっかけとなりました。

澤田賢悟さん
看護師

中井梨華さん
看護師

「先生」

看護師2～3年目のころ、男性看護師がまだ少なく、患者さんから、「先生」と呼ばれることがよくありました。ある患者さんにいつもと同じように「先生」じゃなくて「看護師」と訂正したところ、「あなたは看護の先生なんだから先生でいいんだよ」と言われ、その言葉に胸を打たれました。医師だけでなく「看護の先生」として誇りを持って働くことを想い、看護師としての自信とモチベーションにつながりました。

若槻祐太さん
看護師

8

「若槻さんからのメッセージがあり

「心にしました」

その後2年後

「あなたのような素晴らしい

看護師に巡り会えたことに

再度感謝して筆を置きます

担当した患者さんへメッセージカードを書いて渡したところ、後日心のこもったお返事のお手紙が届き、大切に手帳に挟んで持ち歩いていました。2年後、偶然その患者さんの手術を再び担当し、そのお手紙を今も持ち歩いていることを伝えて笑い合いました。再度メッセージカードを渡すと、また温かいお返事をいただきました。勤務中は今も常に僕の左ポケットに入っている大切な言葉です。

澤田賢悟さん
看護師

中井梨華さん
看護師

「僕はもう生きられないから言うけど、あなたは看護師を続けて。これから、どんどん良い看護師を育てて下さい」

末期がんの患者さんが転院される際にかけてくださった言葉です。当院での治療が長く、看護師のことによく見ておられた方でした。看護師という仕事を過酷で続けるのが難しいと感じることもありますが、自信をもつて続けられるのはこの言葉があったからだと思います。

澤田賢悟さん
看護師

伊澤正一郎さん
内分泌代謝内科 講師

10

「先生に会って人生が変わった」

これまでうまくいっていなかつた病気の治療が劇的によくなつたときに、言つていただいた最高級の誉め言葉だと思います。

和田 崇さん
理学療法士

11

「心強いで

担当した患者さんのリハビリを終えたときに言われた一言です。どのような理由で、その言葉が心に残ったのかという私なりの指針になる言葉でした。

橋本祐樹さん
臨床検査技師

前垣義弘さん
脳神経小児科 教授

12

「前垣さんお久しぶりです。
今度、会いに行つても
いいですか？」

臨床検査技師として検体検査を担当していた私は、採血室での業務を通じて、ある乳腺外科の患者さんと出会いました。たまたま難しい採血が一度で成功したことがあり、毎回「今日もありがとう」と笑顔で声をかけてくださいました。最期は採血が難しくなつても「失敗しても大丈夫」と励ましてくださり、亡くなられたあと、偶然葬儀の看板でその方の名前を見つけました。最後まで担当させていたいた感謝とともに、「検体の先には患者さんがいる」という気持ちを忘れず、これからも患者さんに必要とされる検査技師でありたいと強く思いました。

新人の頃、終末期の患者さんを担当したとき、普段寡黙なその方がつぶやいた一言が心に深く残りました。外出を望まれていたのに叶えられないまま亡くなられたことを今でも後悔しています。その経験は「患者さんも看護師も後悔しない看護を目指す」という、私の看護観の一部になっています。

野島菜都美さん
看護師

「・・・・・（握手）」

14

「家に帰れるかな。
まだやりたいことがある」

入院中から対応が難しかった患者さんを担当していたときのことです。发声ができず筆談も拒否され、叱責や測定拒否が続き、精神的に辛い日々でした。ところが退院の日、初めて笑顔で握手を求められ、「自分を少し認めてくれたのかもしれない」と感じました。その瞬間、患者さんにも感謝の思いがあつたこと、そして自分が入院期間の場面だけで「この人はこういう人」と決めつけていたことに気づきました。私たちの関わりは目に見える形で返つてこなくても、きっと伝わっている何かはあるんだと、自分が信じる看護を続けていく大切さを感じた体験でした。

安岡晶子さん
看護師

15

13

病院長が
話題の人物に
迫る！



武中病院長たつての願いで実現した今回の対談。そのお相手は、ささえあい医療人権センターCOML理事長の山口育子さんです。COMLは、「賢い患者になりましょう」を合言葉に、患者と医療者が「協働」して信頼関係を築くことを目指す認定NPO法人。患者と医療者の双方に変化を呼びかけ、コミュニケーションを重視した独自の活動は、全国から注目を集めています。そんなCOMLの理念に关心を寄せる武中病院長。対談では医療者側の本音にもふれながら、より良い医療について熱く語り合いました。

写真 七咲友梨 構成 カニジル編集部



ささえあい医療人権センター
COML 理事長

山口 育子

武中 篤

医療にも
不確実なことや
限界がある



武中 山口さんと初めてお会いしたのは、昨年8月に、秋田県で行われた医学教育学会でした。大会長が、私の友人、泌尿器科の教授。彼らとの食事会に山口さんがいらっしゃった。ご挨拶すると、来月、講演で鳥取大学に行きました。（笑い）。不思議な縁を感じました。

山口 私も初めてお会いしたという感じがしなかったです（笑い）。

武中 山口さんが医療と関わることになつたのは、ご自分が患者となつたときからですよね。

山口 1990年、あと2カ月で25歳というときに卵巣がんと診断されました。当時の主治医は両親に「3年生きる確率は、2割ありません。20代半ばで卵巣がん、しかも残りわずかな人生と知れば、必ず精神状態はぼろぼろになります。本当のことは言わないでください」と箱口令を敷いていました。

武中 その頃、私は医師になつていませんでしたが、振り返ると『がん告知』は一般的ではありませんでした。

山口 手術予定を待たずに破裂しての緊急手術、その後の抗がん剤治療は「癒着止め」という名目で行われました。私は1歳1ヶ月と2歳9ヶ月のときに

弟が生まれています。1歳のときから弟のおむつを持って来たりしていたそうです（笑い）。幼いときから自分のことは自分で決める、他人の決めたことに従うのは大嫌いという性格。自分に起きている真実を知ることができないなんてあり得ない。そしていろいろと交渉して自分の病名を知りました。

武中 がん闘病中に山口さんが今、理事長を務めている（ささえあい医療人権センター）COMLを知り、スタッフとして働くことになった。

山口 COMLがいいなと思ったのは、特定の疾患を対象にした患者会ではなく、患者支援団体であること。患者が変わらなければならないというのは感じていたんです。

武中 変わらなくてはいけないとは？

山口 例えば、みんなで大部屋で賑やかに話をしているのに、回診ですって言われるとみんな布団に入つて寝るんです。元気なのに（笑い）。私は聞きたいことがたくさんあるので、ドクターに質問しますよね。それを見た他の患者が、あんなこと聞いていいの？と言ふんです。みんなそれぞれ聞きたいことがあります。それを聞くこともあります。

会話のキヤツチボールが重要

山口 医療分野では、医療者と患者が持っている情報の質が全く違います。そのいわゆる情報の「非対称」です。その

患者さんとの会話のキヤツチボールが重要

山口 医療者と患者の間には、医療者側と患者側の視点の違いが明確にあります。そのため、同じ日本語でコミュニケーションしているのにイメージの隔たりがあります。COMLではある病院で医師1年目の初期研修医向けに「医療面接セミナー」を行なっています。そこでは医療者側と患者側の視点の違いが明確に

は、仕事復帰、介護、差額ベッド代など様々な内容の相談の内容が書かれています。そうした見方を元に『医者にかかる10箇条』を作成されています。中でも、目を惹いたのは「医療にも不確実なことや限界がある」という記述でした。

山口 自分が患者だったとき、絶対に治してもらえるとは思っていませんでした。抗がん剤を受けた後、どれぐらいい効果があるんですかって聞いたんですけど、そうしたら「せいぜい良くて10パーセントかな」と言われたんです。そのとき頭に浮かんだのは、テレビの視聴率でした。20パーセントの視聴率が高いとされる。でも80パーセントの人を見ていない。あれだけ苦しい治療を受けても10パーセントしか効果がないのか、限界があるなと思いました。

武中 （腕組みしながら）すごい効く新薬が出ましたと聞くと、不治の病が根治できる夢の薬と思われることも多い。しかし、実際には効果が20パーセント上乗せされた程度、ということはよくあります。

ため、同じ日本語でコミュニケーションしているのにイメージの隔たりがあります。COMLではある病院で医師1年目の初期研修医向けに「医療面接セミナー」を行なっています。そこでは医療者側と患者側の視点の違いが明確に

医者にかかる10箇条

1. 伝えたいことはメモして準備
2. 対話の始まりはあいさつから
3. よりよい関係づくりはあなたに責任が
4. 自覚症状と病歴はあなたの伝える大切な情報
5. これからの見通しを聞きましょう
6. その後の変化も伝える努力を
7. 大事なことはメモをとって確認
8. 納得できないときは何度も質問を
9. 医療にも不確実なことや限界がある
10. 治療方法を決めるのはあなたです

COMLが素案づくりを手がけ、1998年厚生省から発表。その後はCOMLが改訂版『新 医者にかかる10箇条(小冊子)』を発行し、受診の構えとして普及に努めている。

なります。

武中 医師が、本物ではない模擬患者さん、シミュレー・テド・ペイ・シエントを「診察」するものですね。

山口 研修医は模擬患者に必死で説明するんです。中には理路整然と説明します。一方、模擬患者側は「私の言い分を聴いてもらえたかった」「理解しているかどうか構いなしに説明が一方的に進んだ」というフィードバック(感想)でした。

武中 (深くうなずいて) まだ患者さんにベクトルが向いていないんです。手術するときの合併症の説明をしなければならないとします。出血、感染症、再手術の可能性がそれぞれ何パーセントあります、というようなことをバーツと言う。あー全部言つた、良かつたと満足する。

山口 一方、患者は全く納得していない。うわーっと説明されただけで、何も理解できていませんから。

武中 頭に詰め込んだ知識を口から出しているだけなんです。ただ、若いときはほくもそعدたかもしません。だから若い先生には、患者さんと会話のキヤツチボールをしなさい、理解されているかどうか確認しながら進めるようにと言っていますが……。

山口 医療知識、経験に加えて、医師



に限らず、今の若い人は自分たちと違った世代の人たちと付き合いをしない傾向があります。

武中 さらに医学部ブームとか言われて、偏差値重視になり、コミュニケーションを苦手とする学生も多い。

山口 高校や予備校の教師が、偏差値が高い学生に医学部進学を薦めると聞きます。しかし、患者と向きあう臨床医は、子どもの頃から培つたコミュニケーション能力も必要。ただ、模擬患者による我々の「医療面接セミナー」などで、ある程度の改善は可能です。

武中 模擬患者のリアルな感想を研修医に伝えるとショックを受けませんか?

山口 普通に生活していると、「あなたのコミュニケーションはここに問題あります」なんて指摘されることはないです(笑い)。医師はみなさん賢いですから、2回目は劇的にコミュニケーションが変わるものが多い。

看護師や医者も 患者の一言で傷つく



武中 今回、山口さんと対談するということでいろいろと調べていたら、とりだい病院が2003年にCOMLの「病院探検隊」を受け入れていることを知りました。

山口 国立大学病院第1号でした。(大

武中 では、山口さんも、このとりだい病院で受診されたのですか?

山口 もちろん(笑い)。「胸痛」(総合診療外来)で受診しました。

武中 (当時の資料を見ながら)受付で保険証を忘れたことを伝えると、対応していたスタッフは途端に困惑した表情になり、まるで尋問のように、疑いを前提として質問をされた」と書いてありますね。

山口 保険証を出すとCOMLの人間だと分かってしまいますから。

山口 なるほど、そこまで徹底しているんですね。

武中 ある大学病院に行つたときに、事務の方が付度したのか、「この人、COMLの探検隊です」というメモが受付で見えたことがあります。医師たちは、なんのためにやるんだって

ります。(受付職員が保険証の番号を確認しようとしたのはできるだけ保険で診療できるようにしようという配慮からだとと思う)確かにこうした思ひやりがあれば受け入れやすい。

山口 かつて私が入院していたときの話になるんですが、長く病院にいると医療者とも仲良くなるんです。そこで気づいたのは、当たり前のことなんですけれど、看護師さんやお医者さんも患者の一言で傷ついたり、悩んだりしていること。そこに患者側は気がついていない。患者側は、医師は違う世界の人みたいに思っているところもある。お互い、人間対人間という原点に立たないと医療は良くならない。

武中 山口さんの言葉が我々に突き刺さるのは、医療の知識もあって、現場もご存じであるから。これからも、とりだい病院を厳しく、そしてあたたかく見守ってください。

が、本当は地元の人々に見てもらつてフィードバックしてもらうのが理想だと思っています。

武中 ただ山陰の人は優しいので、気を遣つてあまり言つていただけないかもしれません(苦笑)。

山口 ゼひ、言つてほしい。ただ、一つ気をつけなければならないのは、言つたとしても否定的な結論だけ伝えることはしない。それだと受けとめてもらえないんです。なぜ、そう感じたかの理由やどうあつてほしかの提案・提言を伝えるようにしています。

武中 先ほどの、とりだい病院の病院探検隊のリポートにはこうも書いてあります。

このとりだい病院もそうなんですが、アートに力を入れている病院は印象に残りますね。先ほど、病院を見学させていただきましたが、『アート回廊』として素晴らしい写真や絵画などが展示されてありました。手術室の壁画も素晴らしい。

武中 病院を受診する、手術を受ける患者さんはどうしても緊張されています。それを少しでも緩和できればいいなと考えています。病院探検隊と趣旨は似ているのですが、私が病院長になつてから、サポート体制で力を入れています。モニター部門は、例え、どりだい病院の受診アプリ「とりりんりん」を使ってもらい、使い勝手がどうなのか、改良点があるのかなどの意見を出してください。モニターディア部門は病院の中に入つて、いろんな活動やお手伝いをしていただぐ。

山口 それは素晴らしいです。COMLとして病院探検隊をやつています



賢い患者 山口育子 岩波新書
患者の患者体験を土台に、患者に向かう医療の向き合い方を探求する者と医療者とともに同じ目標に立ち、幅広く取り組んできたCOMLの活動を紹介する。

山口 育子 ささえあい医療人権センターCOML理事長
1965年大阪生まれ。1990年卵巣がんを発症。1991年COMLの創始者である辻好子と出会い、COMLの活動趣旨に共感して1992年よりスタッフとなり、相談、編集、涉外などに携わる。2002年より専務理事兼事務局長を経て、2011年8月理事長に就任。数多くの厚生労働省審議会、検討会の委員、広島大学医学部客員教授などを経て、2010年に鳥取大学医学部附属病院泌尿器科教授に就任。2017年副病院長。低侵襲外科センター長、新規医療研究推進センター長、広報企画戦略センター長、がんセンター長を歴任し、2023年から病院長に就任。とりだい病院が住民や職員にとって積極的に誰かに自慢したくなる病院「Our hospital」(私たちの病院)の実現に向けて取り組んでいる。

学病院を舞台とした山崎豊子原作の長編小説「白い巨塔」である大学病院から依頼が来て、驚いたことを覚えていました(笑い)。

山口 「案内見学」「自由見学」「受診」という3つの役割に分かれます。受診は、他の患者に交じつて我々が受診します。抜き打ち検査のようなものなので、病院から依頼があったときのみ行います。とはいっても、ほとんどの病院から依頼があります。

武中 では、山口さんも、このとりだい病院で受診されたのですか?

山口 もちろん(笑い)。「胸痛」(総合診療外来)で受診しました。



賢い患者 山口育子 岩波新書
患者の患者体験を土台に、患者に向かう医療の向き合い方を探求する者と医療者とともに同じ目標に立ち、幅広く取り組んできたCOMLの活動を紹介する。

飯野守男
1971年鳥取県米子市生まれ。解剖学者の父を持ち、中学生の時に法医学者を目指す。鳥取大学医学部卒業、大阪大学大学院で博士号取得。京都大学、大阪大学、慶應義塾大学で勤務したのち、2015年母校鳥取大学医学部法医学分野の教授に就任、現在に至る。



手前左から、ラフリさん（消化器内科）、飯野守男さん、フィクリさん（統合生理学）、ワルディさん（ウイルス学）。奥、レイハンさん（法医学）。

完成したシェアハウスは、最初の居住者であるブータン出身のダワ・ザンボさんが『チャロハウス』と命名。「チャロ」はブータン語で「友達」という意味。現在もインドネシア、マレーシアから来た留学生3人が暮らし、友人たちも時折集まつてくる。この日も母国料理を持ち寄り憩いのひと時を過ごす。
「私が留学生だったとき、現地の人にお世話になった。直接恩返しはできないけど、今度は日本に来る若い留学生を私が助ける番」

飯野さんは鳥取県唯一の法医学者。大学での講義のほか、司法解剖などでも大忙しだ。シェアハウスのDIY、留学生と過ごす時間は息抜きでもあり、最大の生き甲斐——IKIGAIでもあるのだ。

飯野守男さん（鳥取大学医学部法医学分野教授）は、2022年2月、築60年以上の空家を購入。約1ヵ月で留学生のためのシェアハウスに改修した。作業はほぼすべて「1人DIY」。キッチンもトイレも床も照明も水栓も、バラして外して高圧洗浄。使えない部品は新たなものに取り替えた。実験室で余ったシンクを見つけると「高さ幅がぴったりだと運び入れたり、家具も知り合いを頼つて譲り受けた。

「小さい頃から機械いじりが好きで、家の掃除機も壊れたら直したりしていました」

新連載スタート

これが、私の

IKIGAI

人生は楽しいから、頑張れる

撮影 七咲友梨 取材・文 中原由依子

昨今、全国の大学病院や中核病院の経営難についての報道が過熱しています。その社会情勢の中、2029年にスター院建設を推進するためには、経営状態の改善が喫緊の課題となっています。

その克服を目的として、2024年6月から院内に「マネジメントセンター」が設立されました。本センターの目指すところは、まさに「経営の中心」です。ここでの経営（マネジメント）とは、①収益性の確保、②患者さんの満足度向上、③医療安全面の向上、そして④仕事の省力化の四つの柱を軸にした運営を目指しています。そうした病院「経営」に関わっている私にとって「世界は経営でできている」は興味深い一冊でした。

経営学博士である著者は、「『経営』という考え方を生活に置き換えてみる令和冷笑话エッセイ」であると前置きし、冷静かつ傍観的な視点で社会全体を分析しています。本書の帯に、「みんな人生の経営者！」とあるように、「見」「経営」とは関係なさそうな個人の人生や社会のあり方をより良いものにするために、15のテーマ（仕事、家庭、恋愛、勉強、科学、健康、孤独、虚栄、老後など）で発生する悩みや課題）に、「経営」という考え方を持ち込み、これらを新しい角度からの視点で解釈し、ユニークな「経営論」を開拓しています。

本書は、難解な数値の解釈法であるとか事業成功の秘訣などについては一切書かれていません。一般に、「経営」とい

カニジルブックレビュー

第8回

医療従事者は 「話題の本」をこう読む

「世界は経営でできている」

（岩尾俊兵 講談社現代新書）

世界は経営でできている

岩尾俊兵



上司はなぜ無能なのか?
一生モノの思考法

講談社現代新書

鳥取大学医学部附属病院 副病院長
女性診療科群 教授

評者 谷口文紀

それに気づく人は少ない。②誤った経営概念によって、人生に不条理と不合理がもたらされ続けている。③誰もが本来の経営概念に立ち返らないと、個人も社会も豊かになれない。

経費を削減することだけが「経営」の目標になつてゐることに疑惑を抱いている読者、そして人生論として将来への不安を感じてゐる多くの読者の共感を得てゐることだと思います。また、著者は「価値は無限に創造できる」とも書きます。「他人」は奪いあう相手でも競争相手でもなく、共に価値を生み出す仲間となるというのです。病院は、まさに全職員が一致団結して、さまざまな価値を創造することにより、樂しく仕事をする、他人と自分を同時に幸せにすることができる場所であるのです。

病院経営においては、「バランスのよいマネジメント」の視点は必須であり、していくかねばならないことを再認識させてくれる一冊です。

谷口文紀（だにぐち ふみのり）鳥取大学医学部卒業。米国環境保健科学研究所留学、婦人科学分野教授に就任。2021年鳥取大学医学部産科・婦人科学分野教授に就任。2023年鳥取大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター長などを経て、2021年鳥取大学医学部産科・婦人科学分野教授に就任。2023年鳥取大学医学部附属病院副院長補佐、2025年より同病院副院長となる。日本産婦人科学会理事・代議員、日本生殖医学会常任理事・代議員など要職を務める。

活動内容

小児病棟内にあるデイルーム（共有スペース）で、月に1回「なかよし教室」を開き、子どもたちと一緒に工作やペーパーサート（紙人形劇）作りなどをしています。

いつから

1999年から。

きっかけ

私の子どもが小学1年生の時、とりだい病院に約1年間入院しました。その頃の「なかよし教室」は看護師さんがされていましたが、とても忙しいため開催回数が少なく、子どもたちは残念がっていました。私は以前教員をしていたこともあり、「私に教室をやらせてください」と看護師長さんにお願いし、そこからずっと続けています。

やりがい

入院中の子どもたちは、毎日、病気の苦しさや痛み、治療のつらさ、生活にも制限があったりと大変な中、とても頑張っています。またご家族の方も、病気のこと、家に残している兄弟姉妹のこと、仕事のことなどたくさんのお心配を抱えておられます。そんな中、この工作的時間だけは、それらのことを忘れて楽しんで活動されています。「普通に時間を送れる喜び」を感じておられる、大切なひとときです。その時間を届けることが、私には使命の様に感じます。

さらにやってみたいこと

工作スタッフを増やして、月1回ではなく、もっと何回も工作の時間を作りたいです。

とりだい病院のここが好き!

皆さんのが素晴らしい、プロフェッショナル！私にもできることがあれば、微力ながら参加したい、私も病院のスタッフの一員になりたい！と思わせてくれるところ。

趣味/特技

お琴と三絃（三味線）。今、小・中・高校、養護学校に教えを行っています。自宅でも教室を開いていて、演奏会活動もやっています。

山陰でお薦めの場所

美保関灯台が私は大好きです。灯台に隣接しているカフェから海を眺めると、隠岐島まで見えるときもあり、のんびりゆったりとできるところです。おまけに美保神社もステキです。

名前 生和陽子 出身地 鳥取県

撮影 馬場磨貴

一緒に Our hospital -私たちの病院を作りませんか？

とりだい病院 サポーター通信

（読みがな）せいわ ようこ

とりだい病院では「サポーター」制度として、様々な方がボランティア活動を行なっています。この連載ではこうしたサポーターの活躍を取り上げていきます。みなさまもとりだい病院を「私たちの病院」にしてみませんか？

とりだい病院サポーター制度とは

とりだい病院がより良い病院「Our hospital (アーホスピタル)-私たちの病院-」に成長することを目指し、広く地域住民の方に病院運営に参加していただこうと導入した制度。ボランティア部門、イベント部門、病院モニター部門、広報活動支援部門の4部門で構成。また寄付によるサポート支援もいただいている。

【募集要件】

- 15歳以上の方 ※中学校卒業以上（未成年については保護者の同意が必要）
- 本制度の趣旨を理解し無報酬で活動していただける方
- 本院の規則を遵守し職員の指示に従って活動していただける方

【申込先】

鳥取大学医学部附属病院 医療支援課 患者サービス係

詳しく述べる

QRコード

放送 土曜ひる 0:25-0:55

「カニジルラジオ」(BSS山陰放送)

毎週土曜ひる0時25分から放送中。
病院関係者が出演、とりだい病院や鳥取大学をもっと知ることができる番組です。

過去の放送も
こちらで聞けます。



Tottori Breath 大学病院の 今そこにある「危機」

2025年10月27日、国立大学病院長会議の大鳥精司会長（千葉大学医学部附属病院長）が行なった会見は、衝撃の内容だった。全国の大学病院の経営不振は深刻、このままでは大学病院の機能が維持できないと病院の窮状を訴えたのだ。病院の経営赤字が大学本体の経営をも圧迫。大学もろとも倒産の危機に瀕している。大鳥氏の勤務する医学部附属病院は大学予算の約65%。病院の赤字が大学そのもののキャッシュを食い潰しており、これまで、職員の給与が払えなくなり大学も倒産するという。

2023年の国立大学病院の赤字病院は16だつた。24年には25病院に拡大。25年度の赤字病院は約8割に上ると報告された。

沈むように全国の大学病院の赤字が拡大している。良い治療を求めて、高額医薬品や治療を行わなければならない患者が大学病院に集中。結果、医療費率は上昇。例えば、100万円稼ぐのに43万円の費用が掛かっている。残りで人件費も施設費もすべて払う。「儲かるわけがない」と大鳥会長は嘆息した。大学病院の役割は多岐にわたる。

人材育成、そして医療研究や創薬を担う。外来患者を診て、重篤な患者には高度先進医療を行う。地域の病院には医師・看護師を派遣し、医療の意識啓蒙のための教育も行う。

町の雇用や経済にも大きく寄与。何より病気になった患者の救急搬送先としてなくてはならない存在。一帯の医療の「最後の砦」なのだ。

ところが、大学病院であっても経営が逼迫すれば、医療機器の更新ができない。高度医療、最新医療はできなくなる。医師や看護師、スタッフも補充できない。病院から優秀な医師が去り、医師の地域病院への医師派遣が滞る。病院の少ない地方や過疎地では、その影響は計り知れない。地域医療の崩壊である。働き方改革も大切である。物価上昇に合わせて適正な昇給も行わねばならない。もともと国立病院の給与は、私立大学附属病院、市中病院の約2分の1と言われている。技術の習得や社会的な意味、研究の充実、高度な医療知識の獲得を目指して医師・看護師・スタッフになつた人がほとんどだ。いわば、患者のためになりたいという意識とモチベーションで支えられている。

会見を聞いていて、現行制度では臨床、教育、研究すべてを大学病院が背負う体制は限界がきていると私は感じた。研究の推進と臨床は二律背反。研究を頑張らないと新しい成果は生まれず論文は書けない。当然臨床（診察治療）はできない。逆に臨床に汗すれば、役職も上がらなければ学位も取れないといふことも起こりうる。病院運営は厚労省、そして研究は文科省管轄という構図も問題を複雑化している。

国の抜本的な医療改革と保険制度の見直し、行政支援は待ったなし、なのだ。

では、我々のとりだい病院はどうか――。現時点では「黒字」の健全経営を維持している全国でも数少ない大学病院である。だが、武中篤病院長の危機感は強い。高度医療、地域の医療の最後の砦を継続するため、エコノミー、エコロジーを考える必要があると「医療のエコ」を合言葉に掲げ、医師、看護師、スタッフ病院が一丸となつている。院内の会議では「いかに無駄を省くか」「医療の質や患者サービスは落とさない。しかし、どうしたら質を落とさず省力化できるか」を議論、実践している。その根底にあるのは地域に貢献するという使命と誇り。人に愛してもらう、人に貢献する、そして適材適所。この「人にフォーカス」をした、とりだい病院の独自マネジメントが黒字の最大要因だと分析する。しかし薄水を履む状況はとりだい病院も同じ。地域の医療を守るために、皆さんからのエールをお願いしたい。それこそがとりだい病院の一一番大きな「やる気」と「誇り」につながるから。



結城 豊弘

1962年鳥取県境港市生まれ。テレビプロデューサー。鳥取大学理事と本誌スーパーバイザーを務める。鳥取県アドバイザリースタッフ。境港観光協会会長。



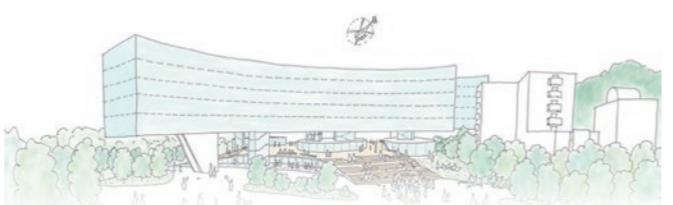
2029年新病院着工へ とりだい「未来病院」発進!!

「私」なら、
こうする
&こうしたい！

手術部 副看護師長
前田延子

2001年、鳥取大学医学部附属医療技術短期大学部看護学科卒業後、とりだい病院入職。手術部、小児病棟、広島大学病院手術部への出向を経験し、2008年、再びとりだい病院手術部に戻り現在に至る。2020年より手術部兼材料部担当副看護師長。

取材・文 中原由依子 写真 馬場磨貴



者さんに対面する時間が増え、手術看護に集中できると思います。

手術看護の発展には、もっと新しい意見を入れていく必要があります。従来のように先輩看護師の教えをしっかりと守ることも大切ですが、それだけでは伸びしろがありません。一つのやり方だけではなく、安全を担保した上で、いろいろなやり方を取り入れてみる。経験が浅い看護師も自分の意見を伝えやすく、周囲がそれを支えながらチームで成長していくような環境が作れたらいいなと思います。

これから時代は「AIと人」や「先輩と若手」など、とにかく共存してバランスよくやっていくことがとても重要になります。

とりだい病院は、これからも先進的な治療をする場であり、地域から信頼される病院でなければならない。その前提条件はあくまでも、安全に手術が行われること。

高難度な手術が次々と導入される今、一つひとつの手術を確実に無事に終えることは、決して簡単なことではありません。だからこそ、そうした私たちの研鑽と努力の積み重ねが認められ、「とりだい病院があるから安心だね」と地域の皆さんに思っていただけることが何より嬉しい。とりだい病院手術部に寄せられる熱い信頼が、私たちスタッフのモチベーションとなり、さらに質の高い医療提供につながる。そのような好循環がずっと続いていると願っています。

私はとりだい病院に勤務して20年以上が経ちます。長らく手術部の配属で、とりだい病院における手術部の変遷を見てきました。

入職した当初は、とりだい病院でロボット支援手術を行うなど想像もしませんでした。それが今や3機種4台。その他の手術でも医療技術が進歩し、私たち手術部のスタッフは日々アップデートを求められながら、互いに連携して毎日の手術が滞りなく実施できるよう努めています。

手術はたとえ同じ診療科の同じ術式であっても、年齢や背景、体格などが患者さんによって違います。微調整やイレギュラーなことが起きたときの対応は人間しかできない。術前の患者さんとの関わりがとても重要で、そこでの観察や対話で見て感じたことが手術にいかされるのです。

現在、とりだい病院は新病院に向けて動いており、私もミーティングに加わっています。未来の新病院では、手術部看護師の業務も大きく変わっていくことでしょう。手術室に患者さんを受け入れる際、今は指差し声出しで確認をしていますが、顔認証でさっと入室が完了したり、メスや鉗子などの器械の準備や在庫管理もロボットがやってくれる日がくる。あまり知られていませんが、私たちの業務で多くの時間がとられているのは、手術の準備、確認作業。これらはAI（人工知能）を活用して省力化できるはず。その結果、看護師は今よりも患



〒683-8504 鳥取県米子市西町36番地
鳥取大学医学部附属病院 広報・企画戦略センター内「カニジル」編集部
TEL 0859-38-70339 / FAX 0859-38-6992
MAIL byouin-kouhou@med.tottori-u.ac.jp



フォトグラファー七咲友梨が切り取る
とりだい病院の日常



七咲友梨

島根県出身。役者として活動後、写真家に。ポートレイトや国内外の旅や暮らしの写真を中心に雑誌、広告、Webなどの分野で活動すると同時に、写真展や写真集制作など作品発表も行う。近著に『朝になれば鳥たちが騒ぎだすだろう』『どこへも行けないとしても』(1.3h/イッテンサンジカン刊)。映像撮影も手がけ、映画『場所はいつも旅先だった』(監督:松浦弥太郎)では、動画とスチールの両方を担当。



check!

とりだい病院情報
日々発信中!

X @kanijiru
@kanijiru

f @tkanijiru